

## 2022（令和4）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和4年6月28日（火）午後6時00分～
- 会 場 釧路市生涯学習センター8階 802・803
- 出席者 13人

### 〔市長より説明（別途資料参照）〕

○都心部のまちづくりについて

### ●質疑応答

#### 【参加者A】

釧路駅の鉄道高架事業については、市長を支持しておりますが、いくつか懸念事項がありますので、お話しいたします。

まず、今回のまちづくり計画は、北国で港街である釧路市向きではないと思います。「温かい地域」「大都市」「内陸都市」向けのプランであると思います。

屋外ウォークブル空間を目指すとしていますが、釧路は5か月間寒い季節が続き、外で歩けません。

歩行空間を増やすことで、北大通の車線を減らすとしていますが、これは札幌・旭川・帯広のような津波の心配のない内陸都市向けのプランです。片道2車線を1車線にすることで避難時の事故や渋滞の危険性が高まります。以前、新たな道路2路線（市役所横道と柳町公園大通への接続道路）を整備することで、現状より避難における交通環境が向上するとの説明がありましたが、北大通の既存の車線を減らすことによる危険性はないのでしょうか。片道2車線あれば、事故車があった場合や渋滞緩和に役立つはずですが、東日本大震災の被災都市の復興プランに、このように車線を減らしウォークブルにした都市はあるのでしょうか。

さらに、公共交通中心のまちづくりという観点からは、地下鉄、電車が頻繁に往来する大都市向けだと思います。接続道路がL字型の五差路とすることも、津波のない内陸向けであり、直進の道路にしたほうが、津波避難の必要性がある釧路市向けだと考えられるのです。

将来、電気自動車や、高齢者が免許を返上せずとも済む自動運転自動車の登場も予測され、新しい車社会へ対応するまちづくりの視点も重要だと思います。

まちづくりの基本は、命を守る安全・安心を優先すべきであり、防災の問題を解決できてこそ、北大通の賑わいや商業の活性化が成り立ちます。

今一度、防災の専門家による検討会を実施し、このプランの危険性と安全性についての評価と意見をまとめ、市民に報告し、その上でこのプロジェクトを進めるべきです。

#### 【市長】

賛成する側と、反対する側の両方の視点から物事を考えることが市役所内でも重要であると、私は考えております。思い込みもありますので、反対の論点からも考察し、専門家のご意見をいただきながら進めていくことが必要です。今は教科書の無い時代といわれていますが、真剣に議論して進めていくことが重要で、その最たるものが、まちづくりです。

このまちづくりの計画は、防災の観点からスタートしております。

現状、跨線橋が2本ありますが、車中心社会の今の中心市街地の状況では、津波が生じた場合、このエリアにおける通過型の車を対象とした避難シミュレーションの結果では、跨線橋で最大約30分にも及ぶ渋滞が発生し、避難することはできません。

橋の下を抜ければ良いという議論もありますが、このまちづくり計画では、通過型の車を減らすことで、相対的に中心市街地の車の数も減っていきます。

中心市街地の住民や買い物をしている方々の避難は、高い建物が多いため、車ではなく、徒歩で避難する場所があります。

この計画は、通過する車の避難をどうするかということと、かねてからの課題であった、まちに賑わいを取り戻すことを組み合わせたプランニングであり、まずは、しっかりと命を救うという観点ですすめております。あわせて、どのくらいの車が減れば避難が達成できるかということはシミュレーションし、専門家の意見も聞きながら、皆さんにお示しして進めていく考えです。

このプランは積雪寒冷地の釧路には向かないという点は、ウォーカブルは温かい地域が有利であることは間違いないものの、世界をみると、もっと寒い地域でウォーカブルな街づくりをしている都市はあります。日本があまりに効率を重視する車社会になっているのです。

もちろん雇用や経済を守ることは重要です。しかしながら、まちづくりと、雇用・産業の発展には、若干の差異があることを認識しながら進める必要があります。

釧路は寒いですが冬期間の日照時間が長いなど利点もあり、様々な手法で対応できると思います。皆でより良い環境を作りあげていき、その地域がどんどん充実し、人が集まって来ることが肝心なのです。人が集まる場所では商業も充実します。

新しい都市計画の考え方として、人の拠点の「暮らし」をキーワードに、病院・買い物・金融機関等の機能をもたせた7地区(中心市街地を加えて8地区)を、それぞれ公共交通機関で結んでいきます。

釧路市立図書館が北大通に移転したことで、利用者の方が北大通を訪れるようになりました。例えば、市民文化会館を将来的に駅前に設置することで、土日イベントがあれば、公共交通を乗り継いで人々が駅や北大通を訪れ賑わいが生まれます。

釧路には公共交通機関がないといわれますが、釧路にはバスがあります。バスという公共交通機関で各地域を結び、皆さんがバスを利用することで、地元バス会社も存続でき、利便性が上がり、料金も維持できます。

先日、釧路フィッシャーマンズワーフMOO5階の多目的アリーナにて、毎週月曜日に子育て世代の方が利用できる「ちびっこマンデー」を開設し、こちらも多くの方々にご利用いただいています。このように、人が集う施設がまちの中心部にあれば、店舗も集まり賑わいが生まれます。

この計画は、命を守る防災対策を最優先にスタートし、そこに商業の活性化や賑わいの創出などの従来のまちづくりの課題をどのように進めていけるのかを考えたものなのです。

## 【参加者B】

市政懇談会の開催回数をもっと多くしていただきたい。これだけ多くの市職員も参加している中で、なぜ開催するのかを考えていただきたい。

私は、このまちづくり計画に賛成の立場です。釧路市はそろそろ何かをしなければ、衰退の街になってしまいます。たたき台をつくって、市役所に一生懸命進めていただきたい。なぜこれほども予算をかけなければならないのかと、不満や意見がある市民もいるとは思いますが、市には、一般の市役所のやり方ではなく、熱意と情熱をもって取り組んでいただき、釧路市が誇れる街として、道東の拠点として、永く自治体として残っていくためにも、是非頑張っていたいただきたいと思っております。

防災の関係は、絶対に進めていただきたいのですが、今の防災の体制のままでは、大きな被害が出ます。今の防災の体制は、その場しのぎのものであり、大きな津波が来たときのことを考えて、もっと根本的に力を入れて進めていただきたいです。皆が安心して避難できる場所や体制が必要であると考えています。

#### 【市長】

市政懇談会の開催回数につきまして、私達の市政懇談会はこのような形で開催しておりますが、もし聞きたい話があるので来てほしいということであれば、市の幹部職員全員で行くことは難しいかもしれませんが、機会を作りますので、お話しただければと思います。

また、防災につきましては命を救うことが重要です。様々なシミュレーションを実施し、これから北海道の方で被害想定を算出し、今週くらいには頂けると思いますので、そのことを踏まえながら、しっかり対応してまいります。私も、国の中央防災会議のワーキンググループのメンバーとして、北海道の自治体を代表して参加し、しっかりと話をしてまいりました。どのような形で対策を講じていくかということについて、しっかりと進めてまいります。

#### 【参加者C】

今日の市からの説明は、概ね理解できました。

この計画の推進も良いのですが、その前にやっていただきたい課題が各地区に、たくさんあると思っております。

まず一番の課題は、釧路の駅前の繁華街のシャッター街です。

昔と比較し、繁華街には、買い物する店も遊びにいく場所もありません。今はただ駅前からバスに乗り素通りするだけです。私の若い頃は、街に遊びに行こうと子どもを連れて出かけましたが、今はそれをすることができません。

観光客が朝起きて、お土産を買う場所がないという話もよく聞きます。釧路フィッシャーマンズワーフMOOもありますが、時間にならないと開店しません。北大通は釧路にとってメインストリートであるにもかかわらず、空き店舗ばかりですので、何らかの対策を実施していただきたいのです。

また、米町地区あたりは、日常的に買い物ができる店がありません。車に乗って出掛けられる方は問題ありませんが、バスに乗って買い物に行く方は、重い物を持って帰ることができませんので、市でも良い方法を考えていただきたいです。

#### 【市長】

まちづくりは、色々な環境をどのように作っていくのかということだと考え

ております。

今の環境は、昔からの取り組みの上に今日が成り立っており、誰もが利便性を追求して様々なことに取り組んだ結果、現状のようになったと受け止めております。しかしながら、各地域にて、誰もが悪くしようとは思っておらず、その時その時に最善と思える取り組みを進めてきた結果と言えます。

私は、ウォーカブルという視点が、今のまちづくりに重要であると思っております。

例えば、イオンのショッピングモールはウォーカブルという視点で作られているそうです。広大な駐車場から店舗まで歩き、広いモールの中も歩き廻ることが出来ます。埼玉県越谷市にあるイオンショッピングモールは、とても大きな店舗だそうです。モール内はただ歩くのではなく日用品など買い物できる店舗が数多くありますが、つまりは、たくさん歩くことができる場所が今求められているのだと私は考えております。

そのことを街に置き換えたとき、昔は、車やバスで北大通に行き、人が集い、北大通には喫茶店、飲食店のほか様々な店舗がありました。そこから、どんどん人がいなくなり、道路が広くなり、中心市街地は通過型の街になり、街全体が郊外に拡大していく中で、中心地の賑わいが失われていきました。

このまちづくりの計画の中でキーワードになっているのは「暮らし」です。地域を各ブロックに分け、人が歩いて暮らす生活圏内の中に、店舗・スーパーマーケットや、金融・郵便局、医療などの機能が整備されていることが重要です。

2000年頃に話題となりました自宅の近辺に買い物できる店舗が無い「買い物難民」は、地方だけの問題ではなく東京都内でも存在します。

人が車で移動し、郊外の品揃えの良い大きなショッピングモールで買い物をする方が効率は良いですが、効率のみを重視すると、本当に各地域が成り立つのかという問題があります。そこで、逆に徒歩圏内で暮らせる環境を整え、地域の施策を一体となって進め、取り組んでいくことを、このまちづくり計画からスタートし、各地域も同様に進めていきたいと思っております。各地域の方々からも様々なご意見をいただき、私もそれに応えながら、ここから新たなまちづくりを進めていきたいと考えております。

#### 【参加者D】

SDGsのワークショップを開催する女性中心の若い世代の仲間や、避暑に来る長期滞在者から、道外から見た釧路市のお話を聞く機会が多くあります。

この市政懇談会の中で、「賑わい」という言葉を多く聞きますが、市幹部職員の皆さんが考える「賑わい」とは何なのか、一言ずつ発言をお願いします。

#### 【総合政策部長】

市役所としてではなく、個人的に考える「賑わい」とは、人が集まって、笑いが起こることで、生まれるものです。

#### 【市民環境部長】

幼少時の記憶ですが、北大通が賑わっており、それは人が非常に多かったということです。くしろデパートや丸三鶴屋のようなところに人が多く集まっており、それが「賑わい」だと思います。

#### 【福祉部長】

私が考える「賑わい」とは、お子さんが家族や親戚などとふれあう公園のような場や、様々な人々がおしゃべりをしに、気軽に立ち寄れる場所です。

**【住宅都市部長】**

私が考える「賑わい」とは、人が集まるところです。住宅や店舗があり、人と人がつながりが生まれるところと考えております。

**【防災危機管理監】**

私も幼少時の体験から、祖父母と孫と一緒に遊べるところや、徒歩で一緒に買い物などが楽しめるところとっております。

**【生涯学習部長】**

私の感覚では、人が集う、なごむ、楽しめるところです。

**【都市整備部長】**

「賑わい」といえば、祭りの状況を思い浮かべます。人が集まり、密度があり、皆さんが楽しんで過ごされる場所です。

**【都市部まちづくり推進室長】**

私が思う「賑わい」とは、若い人がたくさん歩いている状況です。

**【市長】**

社会とは交流であり、交流の中で活力につながるものが「賑わい」と思っております。

**【参加者D】**

一般市民としてのご提案ですが、今皆さんが発言したことを、いろいろな場面で紹介していただくことで、若い世代や女性の方にも、わかりやすく伝わると思います。北大通の活性化という言葉は飽きるほど聞いていて、今聞くと逆に寂しくなるので、活性化という言葉は使わないほうが良いのかもしれませんが。

道外の大学生と話をして、気づいたことがあります。北大通の車の通行を止めても、旅行者が駅から幣舞橋に歩いて辿り着けないと、幣舞橋をいくら宣伝しても訪問者は増えません。また北大通に木を植えれば、津波が来た時には災害対策にもなります。また道外の大学生は、東京の原宿駅は人であふれていますが、明治神宮側は森となっており、そのイメージを北大通にほしいと言っておりますのでお伝えします。

釧路の65歳以上の人は、歩かずに車に依存しすぎです。要支援の方は別として、健康な方はまず歩いていただきたいので、健康維持の観点からもウォーカブルなまちづくりに賛成です。ただし公共交通網を充実させないと、理解が得られないと思います。

買い物等については、新型コロナウイルス感染症対策のため宅配の体制も充実し、使えるツールもたくさんありますので、そのあたりを高齢者の方に伝えれば納得していただけるのではと思います。

防災とまちづくりと一緒に考えるのは、少々乱暴で、どちらも中途半端になってしまうことが心配です。基本、災害の最中には行政の方々も被災し行政は助けに来られないため、自分で助かる努力をしなければなりません。私は4年前から東京大学生産技術研究所にて災害対策のトレーニングを受けており、防災のリスクマネジメントではなく、災害後の復興や避難所運営、各企業がどのように復興しているのかについて学んでおります。釧路市には、防災について、防災士だけでなく様々な専門家や女性にも話を聞いていただきたいです。釧路市は顔なじみの人に話を聞いて施策等を決定してしまうので、若い世代は入

りにくい、意見が言いにくいので、間口を広げて話を聞いていただきたいと思います。

**【市長】**

様々な方々の意見を聞くことができるよう、間口をしっかりと広げるよう進めていきたいと思います。

また、公共についてのご意見をいただきました。「自助・共助・公助」という言葉があり、通常はランクアップしていくものと思われがちですが、実は違います。過去の例ですが、市役所で避難行動要支援者に電話をかけ、避難にかかる支援を必要とされた方を避難させるのに2時間かかりました。一方でその地域の町内会では、支援が必要な方を20分で避難させることに成功しました。まさにこれが共助です。公助は発災後48時間後に始まるのが現実です。

私は皆さんに公助の限界を認識しましょう、行政が公助としてできることは発災前の対策や、自助・共助を高めることであり、この現実を踏まえ、いろいろな対策を進めていくことが重要であり、まさしく今いただいたご意見に同意するものであります。

多岐にわたり、ご意見ありがとうございます。しっかりと間口を広げ、市民の皆様からお話を伺いたいと思います。